

八千代市におけるWCS用稲の生産支援

～ 耕畜連携によるWCS用稲の生産・利用の取組～

1 活動のねらい

八千代市では、平成25年からWCS用稲が生産されており、平成30年に畜産農家2戸、耕種農家1戸でWCS用稲収穫のコントラクターが設立されました。農業事務所では、コントラクターが継続した活動ができるように市と連携して支援しました。

2 課題の背景

八千代市の酪農10戸うち9戸は自給飼料を利用しています。近年、飼料価格の高止まりや経営規模拡大のため、市内で得られる安価な自給飼料としてWCS用稲の需要が増加しています。一方、耕種農家は米価の低迷、肥料や資材費の高騰のため所得が減少しており、収入が確保でき、コスト低減が見込まれるWCS用稲が注目されていました(図1)。

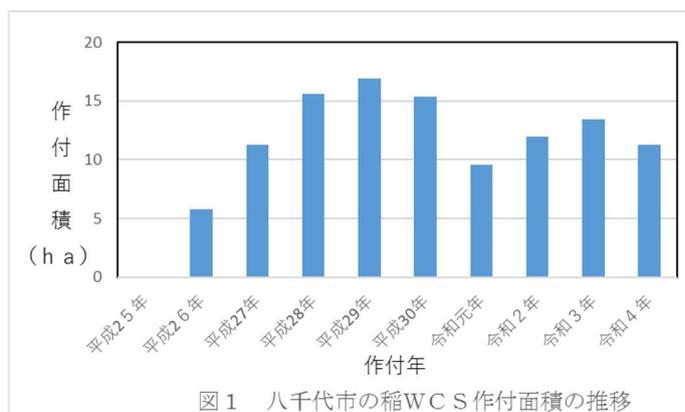


図1 八千代市の稲WCS作付面積の推移

しかし、稲を飼料とするためには、専用品種の導入、飼料としての収量・品質の栽培、管理技術の向上だけでなく、収穫作業の日程調整、労働力の確保、作業料金や飼料の買取価格の設定等の運営方法について話し合う場を設ける必要がありました。

3 普及活動の経過・結果

(1) 関係機関・団体との連携

コントラクター、畜産農家、耕種農家、JA、八千代市、千葉農業事務所で構成する「八千代市飼料用米生産・利用協議会」は、収穫委託料金や飼料買取料金等について協議する場となっています。そこで農業事務所では、生産者の栽培状況、実需者の需要動向、コントラクターの収穫進捗の情報を協議会で共有し、協議や検討が円滑に進むよう支援しました。



写真1 WCS用稲のラッピング

(2) コントラクターへの支援

コントラクターに WCS 用稲の生育状況を伝え、予定される収穫時期に収穫機械や労働力を確保するためのスケジュールを調整することにより、コントラクターが良質な飼料を円滑に収穫できるよう支援しました。

(3) WCS 用稲の栽培コスト低減への支援



WCS 用稲の栽培コストの低減と省力化を図るため、WCS 用稲の直は栽培を試作する生産者 1 戸に生育・収量調査を行い、問題を把握しました。その結果、天候による播種時期の遅れ、発芽揃い、雑草対策が問題であったため、排水対策や除草剤体系の情報提供を行い、栽培管理技術の改善を指導しました。

写真2 WCS 用稲の乾田直は

4 今後の課題

海外飼料は円安や不安定な供給のため、更に価格の高騰が懸念されており、畜産農家の国産飼料への需要が高まっています。また、耕種農家も燃料・肥料・資材の高騰や長期にわたる米価低迷により、WCS 用稲の栽培面積が拡大することが見込まれ、新たな収穫作業の体制整備、WCS 用稲の栽培コストの低減や省力化が必要になると考えられます。

今後も収量や品質を維持するために、適期に直は栽培をするための排水対策や除草体系の改善、WCS 用稲の適正な品種構成を進めます。また、ドローンを活用したは種、肥料・薬剤散布の省力化も必要になると考えられます。

5 担当者 八千代グループ ◎原 浩文、水島 莉那

6 協力機関 八千代市、JA 八千代市